

口腔生理学

講 師	田 浦 勝 彦	実施時期 単 位 数	第 1 学年前・後期 1 単位 （20 時間）	実務経験	○
一般目標 (GIO)	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
授 業 概 要	口腔生理は全身の生理と共通の法則に従っていることを学ぶ。口腔の機能がいかにかまれているかを学ぶ。口腔機能として「食べる・飲む」、「感じる」、「話す」、「意思表示する」、「動かす」について学ぶ。				
学 習 方 法	講義				
成績評価の方法	定期試験90%と出席状況10%による総合評価				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版				
履修上の注意	口腔と顎顔面領域の保健と医療に従事する歯科衛生士にとって、口腔顎顔面領域の生理的機能を十分に理解し、人々の歯と口腔の健康づくりに役立ててください。				
参 考 書	随時に紹介あるいはプリントを配付する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯と口腔の感覚	1) 歯と口腔粘膜の感覚を概説できる。 2) 歯に力を加えたときに生じる圧覚のメカニズムを説明できる。 3) 歯がしみるメカニズムにおける動水力学説の意味を説明できる。 4) 歯髄炎による痛みと象牙質知覚過敏症の痛みの違いを説明できる。
2	味覚	1) 味覚器の構造と味覚の生物学的役割を説明できる。 2) 舌の構造と機能を説明できる。 3) 各基本味の閾値と性質について説明できる。 4) 味が受容される仕組みについて説明できる。
3	嗅覚	1) 嗅覚の特性と役割を説明できる。 2) においが受容される仕組みについて説明できる。 3) 嗅覚障害について説明できる。
4	咬合と咀嚼・吸啜	1) 上顎を基準とした二次元的な下顎の位置である下顎位の下顎安静位、咬頭嵌合位、中心位を説明できる。 2) 下顎の運動を、顎関節の特徴、限界運動および咀嚼筋の働きと関連づけて説明できる。 3) 下顎の動きを制御する下顎張反射、歯根膜閉口筋反射、閉口反射や開口反射を説明できる。 4) 頭頸部の筋の構成と機能を概説できる。
5	咀嚼・吸啜	1) 咀嚼の定義や意義を説明できる。 2) 咀嚼能力を評価する方法を説明できる。 3) 乳児の探索反射、口唇反射、吸啜反射、嚥下反射を説明できる。
6	嚥下	1) 嚥下・嘔吐に関わる構造を説明できる。 2) 摂食・嚥下の流れを説明できる。 3) 嚥下の概要と食塊の動きを説明できる。
7	嚥下と嘔吐	1) 嚥下の神経機構を説明できる。 2) 嚥下の病態を説明できる。 3) 嘔吐の誘発とその機序を説明できる。
8	発声	1) 生体において声が生成される仕組みを説明できる。 2) 構音器官としての口腔を概説できる。 3) 言語音の形成される仕組みを説明できる。 4) 歯・口腔の病態と発音に及ぼす影響について説明できる。
9	唾液1	1) 唾液腺の位置と構造を説明できる。 2) 唾液腺の種類を説明できる。 3) 唾液の分泌機構を説明できる。
10	唾液2	1) 唾液の性状と成分および生理作用を説明できる。 2) 唾液と疾患との関連を説明できる。